

会議記録

名 称	平成 30 年度 第 2 回 中央区子ども・子育て会議	
開催年月日・場所	平成 30 年 9 月 14 日（金） 午後 6 時 30 分から 中央区役所 8 階 大会議室	
出席者	委員	大竹智（会長）、渡邊浩志、塙佳生、小林英好、藤田美樹、石黒公子、永井勝巳、丹羽亮介、堀越千代、松本紗智、藤丸麻紀、加藤恵子、関屋衣江、箱守由記、黒川眞、中橋猛、長嶋育夫
	区側出席者	福祉保健部保育計画課長 福祉保健部子育て支援課長 福祉保健部子ども家庭支援センター所長 教育委員会事務局参事 教育委員会事務局学務課長 教育委員会事務局指導室長 福祉保健部保育計画課計画調整係長
配布資料	資料 1-1 中央区子育て支援に関するニーズ調査票 設問構成一覧表 資料 1-2 中央区子育て支援に関するニーズ調査票(就学前児童用)(案) 資料 1-3 中央区子育て支援に関するニーズ調査票(小学校児童用)(案) 資料 2 第二期市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出等の考え方について 資料 3-1 中央区ひとり親家庭実態調査の概要 資料 3-2 中央区ひとり親家庭実態調査票（案）	
議事の概要	1 開 会 2 議 題 (1)中央区子育て支援に関するニーズ調査について (2)中央区ひとり親家庭実態調査について (3)報告事項 3 閉 会	

平成 30 年度 第 2 回 中央区子ども・子育て会議 会議録（要旨）

平成 30 年 9 月 14 日（金）

午後 6 時 30 分から

中央区役所 8 階 大会議室

1 開 会

事務局から新しく就任された委員や事務局職員、委員出欠について説明

2 議 題

会長から議事録の作成、会議の録音及び傍聴について説明

事務局から配布資料について説明

（１）中央区子育て支援に関するニーズ調査について

事務局から資料1-1、1-2、1-3、2 について説明が行われた。

大竹会長 今回の議題は、子育て支援に関するニーズ調査を行うため、皆様にご意見をいただき、いただいた意見はこれからの成案に取り込んでいきたい。

国から「量の見込み」の算出等の考え方と、資料1-1で★がついているものは区独自の設問という構成になっている。ニーズ調査を趣旨として行う部分なので、この機会に、ご意見、ご質問をいただきたい。

堀越委員 このニーズ調査は何件に配布し、どのくらいの回収率を目指しているのか。

事務局（保育計画課長） 現在中央区に在住の就学前、小学校児童のうちの約50%の方に配布する予定である。就学前児童が5,500件、小学校児童が3,500件の配布を予定している。回収率は前回行った平成25年は約60%であったため、今回も同程度の回収率を目標に周知等を図る。

大竹会長 これは郵送か。

事務局（保育計画課長） 郵送である。

大竹会長 60%というのは、通常の郵送調査より高いと思う。

事務局（保育計画課長） 60%は、かなり高い数字だと伺っている。チラシや区の広報、ホームページ等を使い、広く周知を図りたい。

松本委員 資料1-2、9 ページの幼稚園の預かり保育だが、問19設問③の通わせたいと思わない理由の選択肢に、項目として追加したほうが良いと思う事が1つある。中央区の場合、小学校と幼稚園の学区は、ほぼ合致していると思うので、学区の関係で、そちらに通わせたいと思わな

いという趣旨の設問を入れたほうが良いと思う。

今、区内では幼稚園預かり保育を3園が実施している。月島地域など人が多く住むところで1園だけの実施は少ないと思う。通わせられないという方がいるとすれば、潜在的なニーズがあると思う。

事務局（学務課長） 学区内でも遠いという趣旨ではなくて、地域をまたがるという話で良いか。京橋、日本橋、月島地域において、預かり保育を実施している園に行きたいという希望はかなえられるような仕組みになっている。

長嶋委員 確認だが、預かり保育を実施している幼稚園へ通園し、そこで友達ができただけ、小学校へ進学する際に、学区内の小学校へ通わずに、通園していた幼稚園に併設されている小学校へ通うという理解で良いか。

小学校に関しては、基本は住所の学区の小学校へ通うが、例外として幼稚園預かり保育を実施している幼稚園へ通った場合、そのままその幼稚園と併設されている小学校へ通うことができるため、地元の小学校か、幼稚園に併設されている小学校か、両方選択できる形になっている。

松本委員 一続きで行きたいと思ったら、近くの幼稚園に通わせたいが、そこでは預かり保育を行っていない。そのため預かり保育を行っている幼稚園へ通わせれば選択肢は増えるという見方もあるが、小学校へ進学すると友達と別れる場合がある。預かり保育は、各地域で1園ずつ行うことができているのだから、どこの幼稚園でもできるのではないか。中央区は、あえて各地域で1園ずつ実施している。それをこれから広げられる可能性があるのか。そうだとすれば、現在、別の幼稚園などに通わせたいという選択肢がある中で、諦めている方のニーズを把握できるので、選択肢に入れると、別の観点を追加できるのではないか。

長嶋委員 制度的に複雑なので、どういう表現にしたら良いのか考えたい。

松本委員 難しいというのは、制度的に難しいという事か。

長嶋委員 アンケートで、通わせない理由の中に入れるという話か。

松本委員 そうである。

長嶋委員 自分の家の近所の幼稚園で、預かり保育を行ったほうが良いと思うか、という質問を別個でつくれば、多分みんなそうだと思うと思う。

松本委員 それは難しいのか。問19の中で選択肢を追加することが良いと思ったが、別個の質問のほうが良いとお考えか。

箱守委員 通わせたくない理由にならなくなってしまふ。今のお話だと、答え

が希望になってしまう。趣旨が違ってしまう。

藤丸委員

今の質問に関して、現在でも、各地域で実施している預かり保育に学区域を越えて申し込む事ができるので、問19で、幼稚園の預かり保育を利用できるとしたらというのは、既に利用できるところとは違う事を聞いていると理解した。学区域の幼稚園でも預かり保育が利用できるようになったら通わせたかという趣旨だと考えていた。「利用できるとしたら」というのは、今はできないが利用できるようになったら通わせたいかという事だと思っている。設問が「お住まいの学区域の幼稚園で預かり保育を利用できるとしたら」と明確になれば、混乱しないのではないかと思う。

国の通知でも共働き等家庭の子どもの幼稚園利用について、そういう事を聞いていると思うので、今の制度でできる事はあえて聞かなくても良いと思う。

長嶋委員

問19③「通わせたいと思わない理由」の5つの選択肢の中の5番目に、「自分の学区域ではないので、通わせたいと思わない」という表現で入れるという話でも良いのか。それをご理解いただけるかは、難しいと思う。

松本委員

幼稚園を検討された段階で、そこはある程度理解されていると思う。

長嶋委員

わかりました。預かり保育全体の組み立てだが、人材や教室も少なく、稼働率も高くないので、学区域以外の必要な方々も受け入れるという組み立てをしている。学区域ではないのかという選択肢をこの中に入れるという形でよろしいか。

松本委員

また見てからという感じにさせてもらう。

事務局（保育計画課長）

今やり取りがあった部分については事務局で検討する。諸条件はあるが、今保育園を利用している方のうち、実際に預かり保育が使えるとしたら使いたいのかという趣旨での問いについては、国の方針でも同様の事を聞いている。要は幼稚園の預かり保育を使いたい方が、どのくらいいるのかを把握するのが、今回の質問の大きな趣旨なので、具体的にどういう形で反映できるか検討させてもらう。

大竹会長

ニーズ調査なので、どういうニーズがあるのかという事をしっかり把握するところが趣旨だと思う。ニーズの結果によって、制度も変えなければいけないと思う。

解釈が幾つかに分かれてしまうのは問題なので、聞きたい事がしっかりと全員にわかるような設問にするよう、事務局と詰めていく。

箱守委員

ニーズが少ないとおっしゃったが、それは保育園に行かせているお

子さんに、一時預かりの実施園が少ないから需要が少ないのであり、実施園が多ければ、5歳児位で幼稚園に移行する方法もある。そうなれば、保育園の0～1歳枠がもう少し受け入れられるのではないかというお話は、前回の会議でも出ていた。需要が少ないという前提で考えていると、そもそもが違ってきてしまうのではないかと感じた。もう少し前向きに、使えるようにしようという体制があれば、保育園の年長クラスの保護者の方たちは、考え方も変わってくると思う。

大竹会長

まっさらな状態でニーズを把握したいと思う。そういう趣旨を持って設問について事務局と検討する。

藤田委員

資料1-2の間34、35の選択肢の変更を考えているという事で、間34、間35の選択肢は、6以降は載せないという事だが、保育園のお子さんが来年度小学校に就学する予定の保護者で、第一子の保護者は仕事をしているので、学童クラブに預けるイメージはできていると思うが、内容についてのイメージが足りていないと感じる。実際に保護者のお話を聞いても、学童クラブをイメージされている方が少ないと思ったときに、選択肢5まででどこまでイメージできるだろうか。

事務局（保育計画課長）

この設問は具体的なイメージがしづらいかもしれないが、今後お子さんを預けるにあたって、どういうイメージを持っているか、学童あるいはプレディにどういうメリットを感じているのか、それぞれの役割を把握しているのか問える内容だと考えている。

大竹会長

あわせて学童クラブやプレディの特徴がわからないなりに回答する事で、保護者が少し理解する事もあるかもしれない。アンケートでは意向を聞くという事でお願いしたい。

藤丸委員

学童クラブとプレディについて、ニーズ調査実施中の段階ではわからないとか、決めていない事もあるかもしれないが、最終的には友達と一緒にする事も結構ある。友達と一緒にとか、他校の子どもと遊べるので学童クラブを選ぶとか、兄弟と一緒にいられるのでプレディを選ぶというものをつけ加えても良いと思う。

大竹会長

選択肢については検討していただくという事でいかがか。

事務局（保育計画課長）

事務局で検討させてもらう。

大竹会長

選択肢は事務局での案と委員の方々の案が合わさったほうが良いと思う。こんな選択肢もある、という事があれば、事務局にお伝えいただきたい。

松本委員

間34と間35の上位5つの質問の順番、項目の順番というのは、何か意図があるのか。

事務局（保育計画課長） 特にない。これは前回の調査と同じような順番でやっている。特に深い意味はない。

松本委員 選択肢の「内容が良い」はなぜクラブが1番目で、プレディが3番目にきているのか。

事務局（保育計画課長） 前回の調査のときには、学童クラブの最初に、預かりの時間が長いからという選択肢があった。今は学童とプレディの時間は同じなので、今回そこを削除した結果、「内容が良い」が一番上にきてしまった。

松本委員 同じ項目が出るのであれば、同じ番号のほうがより良いと思う。ほかは全部見ていないが、揃えたほうが良い。

関屋委員 同じ設問だが、自分が第一子または初めて学童クラブ、プレディを利用する保護者の気持ちで見ていたが、学童クラブやプレディの説明会があつてのアンケートであれば、この内容でも分かると思うが、全くまっさらな状態でこれを見たときに「内容が良い」というのは何の内容が良いのかと単純な疑問が湧いてきた。

事務局（保育計画課長） こちらの趣旨は答える方によって知識に差があるとは思いますが、学童クラブあるいはプレディ、それぞれの事について、どういうイメージをお持ちか、具体的にどちらの方にもどういうメリットがあるか等イメージの部分も含めて、お答えいただくというのが意図である。

前提としては、詳細な内容をそれぞれわかった上で、お答えいただければ、それぞれの施設にどういう利点を感じているか比較できる。今後どうやって、それぞれの施設の特徴を伸ばしていくか等施策に反映できると思うが、調査票を出すタイミング等もあるのでそれも含めての調査と考えている。

大竹会長 今日、別紙が配られたが、これは調査票の中に入るのか。

事務局（保育計画課長） 入る。

大竹会長 学童クラブとプレディについての説明や概要があるので、理解していただけたと思う。

丹羽委員 形式的な部分だが、目次が欲しい。全体で何問あつて、どんな項目について聞かれるのか分からないまま答えると、ストレスがかかる。簡単で結構なので、目次があると、答えやすいと思う。

事務局（保育計画課長） 前回の会議でも、調査票が若干見づらいという話があつた。例えば見出しを大きくする等、ページの割り振りなどもわかりやすいよう工夫した。

目次について、調査票は対象区民へ郵送を行うが、郵送料の関係があり、これ以上ページ数を増やすのは厳しい。

大竹会長

目次はページ数の関係であれば、何問、何ページありますと、冒頭の「調査について」というところに書いても良いと思う。

松本委員

「内容が良い」というのが、漠然としているという事だったが、「内容が良い」の後に括弧書きでどちらかでしかやっていない事を書けば、ページ数は関係なくなると思う。例えばプレディでは地域の方が多く参加するイベントが多い等、学童はいろんなイベントがあると思うので、具体的に挙げれば利用した事がない方でもイメージしやすいと思う。

事務局（保育計画課長）

具体的な中身についてはほかの選択肢の部分、学童クラブとプレディの違う部分の列挙になっているところがある。「内容が良い」というのは曖昧なので、何か具体的にできるか所管とも協議して考えたい。

大竹会長

それ以外の選択肢が内容の事を言っているのであれば、「内容が良い」はとってしまっても良いと思う。

後で気づいた事については文章でお願いしたい。

1 番目の議題のニーズ調査等について現時点ではよろしいか。

次にいってよろしいか。

事務局（保育計画課長）

本日いただいたご意見や、これから提出いただくご意見を踏まえ最終案をまとめたい。

今後の調査の日程等もあり、今回いただいたご意見をまとめ、最終的なものはこれから事務局で検討させていただき、確定は会長に一任をいただく形でお願いできればと思う。

なお、確定した調査票は調査実施前に各委員にお送りする。

大竹会長

今後の手続についてはご意見を伺い、それを事務局で精査しながら、私と事務局でやり取りし、決定させていただくという事でよろしいか。

（「異議なし」と声あり）

（２）中央区ひとり親家庭実態調査について

事務局から資料3-1、3-2について説明が行われた。

大竹会長

中央区ひとり親家庭実態調査は中央区独自の調査で5年に1回行っている。この調査について、ご質問等あるか。

前回の調査時における中央区のひとり親家庭は何パーセントか。

全国平均は12%ぐらいか。今、8～9人に1人というのが、全国調査の平均だと思う。日本の場合、その中の母子家庭が90%、父子家庭が10%位。一般的には、小中学生の9人に1人位がひとり親家庭という記憶がある。

黒川委員 今のご質問は子どもがいる世帯のうち、ひとり親の方は何人いるかという事か。

大竹会長 そうである。全国的には、母子家庭の6割は貧困世帯。日本の場合、母子世帯であると、その中の66%は貧困世帯というデータが出ている。中央区は所得が高いから、少ないと思う。

事務局（子育て支援課長） 対象のお子さんがある世帯数の資料が手元にないので、今回の会議等で報告させていただく。

堀越委員 資料3-2の調査票の問28から問30までの設問は、「子育て支援に関するニーズ調査」と同じような質問があるが、選択肢の内容が微妙に違う。合わせたほうが良いのではないか。

事務局（子育て支援課長） 同じような設問があるので、できる限り合わせるよう見直す。

大竹会長 内容については、気づいたところがあれば、事務局にシートを出していただきたい。

箱守委員 父子家庭のお父さんは、母子家庭に比べて援助が少ないという事を聞いた事がある。支援の違いをお聞かせいただきたい。

事務局（子育て支援課長） 賃金等で男女格差があるので、一部手当等では、女性のほうが多少手厚い部分がある。あと、お配りした先ほどの調査の「別紙 事業一覧」に、①ひとり親家庭親子観劇会から⑩ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金までは父子家庭も利用できる。⑪の母子生活支援施設のみ母子家庭で、生活上の問題を抱えている方やDV被害者等が使う施設になっている。

父子家庭の方にも同じようなサービスはできる限りやっているが、女性以上に情報が伝わらない部分もあると思う。ホームページ等でいろいろな事業の情報発信をしているが、発信の方法、各種手続の窓口等、改めて紹介していくよう努める。

大竹会長 基本的に母子生活支援施設以外は、母子家庭も父子家庭も同じサービスが受けられる。父子家庭の場合には、情報が伝わっていない等で、活用できていない事があるかもしれない。

松本委員 資料3-2の10ページの問25の問いの趣旨について、これをどのように活用するのかお聞きしたい。

事務局（子育て支援課長）　ひとり親の方は子育てでいろいろな悩み等があると思うが、その一方で良かったと思えることがどういうところにあるのかお聞きするという形で入れている。

松本委員　そこから何か発展する設問でなければ、ページを割くのはもったいない。別の設問にしても良いのではないか。ここに悩みなどが書いてあり、その方々の今の生活状況などがあるが、ここだけ気持ちを聞くことに違和感がある。

大竹会長　ひとり親だと大変という先入観があり、けれども楽しい事があるという事を聞き出したいという事か。

事務局（子育て支援課長）　ひとり親の方で、例えばお子さんがいて家庭が明るくなるとか、どういう状況で喜びを感じられるかをお聞きしている。

松本委員　要らないと思う。ひとり親家庭の方だけに伺うのは、本来目的とされている事とはずれてしまうと思う。もし入れるのであれば、区の方の意図が伝わるような内容にしたほうが良い。

事務局（子育て支援課長）　こちらの設問をどう生かしていくか、また設問数によっては、できるだけ少ない中で効果のあるアンケートも重要なので、問25については検討させてもらう。

大竹会長　これは5年前も同じ項目でやっている、経年でとっているものか。

事務局（子育て支援課長）　経年でとっている。5年前と同じ設問で入れている。

大竹会長　なかなか難しい。経年でどういうふうに意識が変わっていったのかをとるというのも一つ意味があるという事か。それは事務局で検討していただくという事でよろしいか。

事務局（子育て支援課長）　全体で見たときに子育てについてお伺いするところで、最初から悩みや不安に感じる事が入ってくるので、回答するときにどうかという全体の調査の流れと合わせて、いただいたご意見も含めて検討し、最終案でやらせていただきたい。

お気づきの点等があれば、お手元にお配りした意見シートをお送りいただきたい。いただいたご意見を踏まえ、事務局と会長で調整し、最終案とさせていただきます。

（３）報告事項

大竹会長　最後に議題「（３）報告事項」について事務局から説明願う。

事務局（保育計画課長）　本日、多数のご意見、大変に貴重なご意見をいただき感謝する。

議題「（３）報告事項」としての報告、連絡事項は、特になし。

議題（１）、（２）ともに、本日、ご意見をいただいたが、今後何か出てきた場合については、席上に配付した意見シートを提出願う。

次回の会議は、２つの調査を実際に行った上で、集計の報告等をさせていただく。開催予定は、来年の１月の下旬から２月の上旬で予定している。詳細な日程が決まったら、委員各位へお知らせする。

大竹会長

平成30年度第２回中央区子ども・子育て会議を終了する。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。